鹿嶋

文太長者の伝説の地で 塩作りに挑戦！

はまなす塩づくり体験

釜を使って製塩するまでを体験する「はまなす塩づくり体験」（同実行委員会主催）が7月19日（土）と20日（日）の両日、はまなすまちづくりセンターと大野潮騒はまなす公園第2駐車場内で行われ、地区内外から63人の子供達が塩作りに挑戦した。

猛暑の中で行う塩たきは、大変な作業。（上）
「しょっぱ～い」と出来立ての塩を味見する子供達。（右）

同体験事業は、今年で11回目。旧大野村の地区は、製塩で長者になった文太長者伝説の発祥の地であることから、昔ながらの方法で製塩する体験事業が始まった。

初日、塩作りについて説明を受けた子供達が行う最初の作業は、各班に分かれて泥を固めて作る塩たき用のかまど作り。汗だく、泥だらけになりながらも、長い煙突の付いた5つのかまどを完成させた。

塩たきには、同センター敷地内のかまども使用され、計6つのかまどに木材がくべられ、炎が燃え始めた。白い煙が立ち込める中、前日に実行委員のスタッフが用意した水槽の海水5・5トンを使い、それぞれの釜で徐々に煮詰めていった。子供達は、かまどの煙にむせながらも火の番をしたり、煮詰まっていく海水のゴミを網ですくう作業を行い、塩作りの大変さを体感していた。

2日目には、185キログラムの純白の塩が出来上がり、子供達は出来たての塩をなめて「しょっぱいけど、美味しい」と感想。その後、おにぎりで、手づくりの塩の味を堪能した。

実行委員のスタッフのひとりは「海水から取れる塩は、3パーセントから3・5パーセントほどです。ある程度の量の塩を作るためには、沢山の海水が必要なんです。子供達もこの体験で、塩がとても貴重なものだということが分かったのではないかと思います。昔の人は、本当に大変な作業をしていたんです」と話してくれた。

鉾田

不思議な模様の班入植物

班入植物・山野草展示会

珍しい班（ふ）入り植物の魅力を知ってもらおうと「班入植物・山野草展示会」が7月11日（金）から13日（日）まで鉾田市大竹の鹿島灘海浜公園内展示場で開かれた。

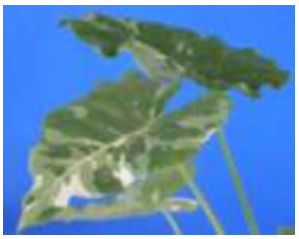
この展示会は、日本班入植物研究会、鹿島路班入植物・山野草会（会長・飯島武夫さん、会員7人）が主催。3月から11月の期間中、月に1回、同展示場で行われている。

班入植物は、植物が本来持っているべき色とは別の色がまだらに出る突然変異で、葉の場合だと、緑色の葉の一部が白色や黄色、赤色の模様になったりするのが特徴だという。

展示会では、ヤマブキやアジサイ、ネムノキなど、会員が丹精込めて育てた夏の班入山野草約50点が展示され、来場者の目を楽しませた。

「班入植物の世界は、葉の周辺部が白色や黄色になる覆班、点状の班が全体に散らばった散班、葉の色が黄緑色やライム色になる黄金葉など、自然が作り出した不思議な色や模様が沢山あります。初めて班入植物を見る方は、観賞のポイントが少し分かりにくいかもしれませんが、展示場では会員が説明しますので、気軽に立ち寄っていただければと思っています」と会長の飯島さん。

9月の展示会の予定は、同展示場で12日（金）から14日（日）の3日間。時間は午前10時から午後5時まで。会場では苗の販売も行っている。興味のある方は足を運んでみては。



珍しい白色の班入りのネムノキ（右）。迷彩模様のクワズイモの葉（左上）、縞模様のイチョウ（左中）。
会場には珍しい班入りの山野草が並ぶ。（下）